

第三期
徳島県廃棄物処理計画
〈概要版〉



平成23年3月

徳島県

第三期徳島県廃棄物処理計画 概要版 目次

1	計画の意義	1
2	廃棄物処理の現状	2
3	第二期徳島県廃棄物処理計画の目標達成度	4
4	排出量及び処理量の見込み	6
5	廃棄物の減量等目標値	7
6	基本施策	9
7	関係者の役割	10
8	計画の進行管理	10

1 計画の意義

計画策定の目的

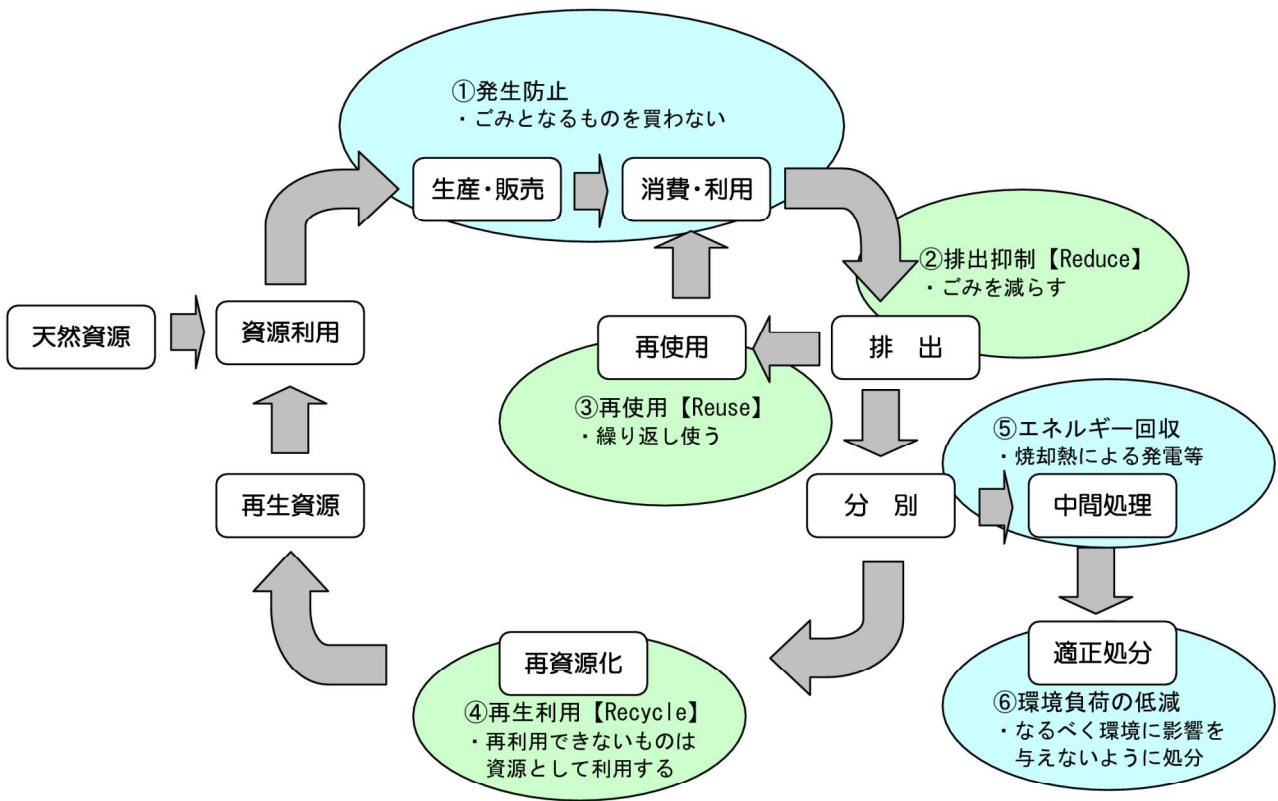
近年、我が国では循環型社会へ転換していくため、様々な対策が講じられており、相当程度の改善は図られつつあるものの、徳島県においても廃棄物の排出量は高水準で推移しており、循環型社会の形成や不法投棄等の撲滅には未だ至っていません。さらに、世界的な資源制約の顕在化など、廃棄物処理・リサイクル等を取り巻く状況は大きく変化しており、また、地球温暖化等の地球環境問題への対応も急務になっています。

これらの諸問題に対応していくため、これまでの大量消費、大量廃棄型の従来の社会のあり方やライフスタイルを見直し、廃棄物の排出抑制、再使用・再生利用等の3Rを推進することで、社会における物質循環を確保し、環境への負荷ができる限り低減される循環型社会への転換をさらに進めていく必要があります。

今回、第二期徳島県廃棄物処理計画の目標年次を迎えるにあたり、ごみ減量等目標値の達成状況及び関連施策の評価を行い、この評価結果を基に課題を抽出して目標値及び施策の見直しを行った上で、「第三期徳島県廃棄物処理計画」を策定することとしました。

計画の期間

本計画の対象期間は、平成23年度から平成27年度までの5か年とし、平成27年度を目標年度とします。



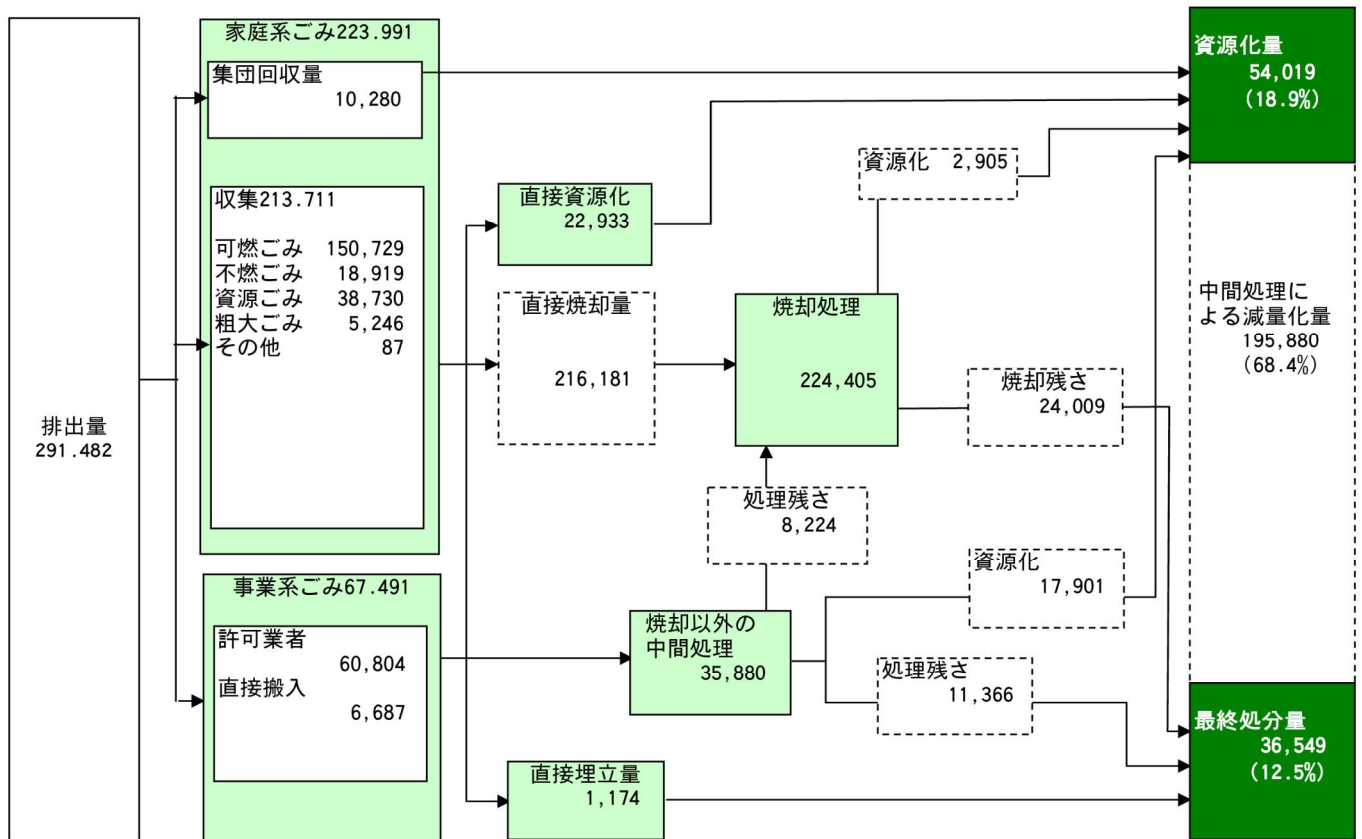
目標とする循環型社会の姿

2 廃棄物処理の現状

一般廃棄物の現状

平成20年度における本県の一般廃棄物の排出量は約29万1千tであり、このうち集団回収活動により約1万tが資源化されています。それ以外の約28万1千tのうち、約80%にあたる約22万4千tは焼却処理されており、その他は直接資源化、焼却以外の中間処理、直接埋立等の処理が行われています。

最終的に、資源化量が約5万4千t（リサイクル率18.9%）、最終処分量約3万7千t（最終処分率12.5%）となっており、約19万6千tが焼却処理により減量化されています。



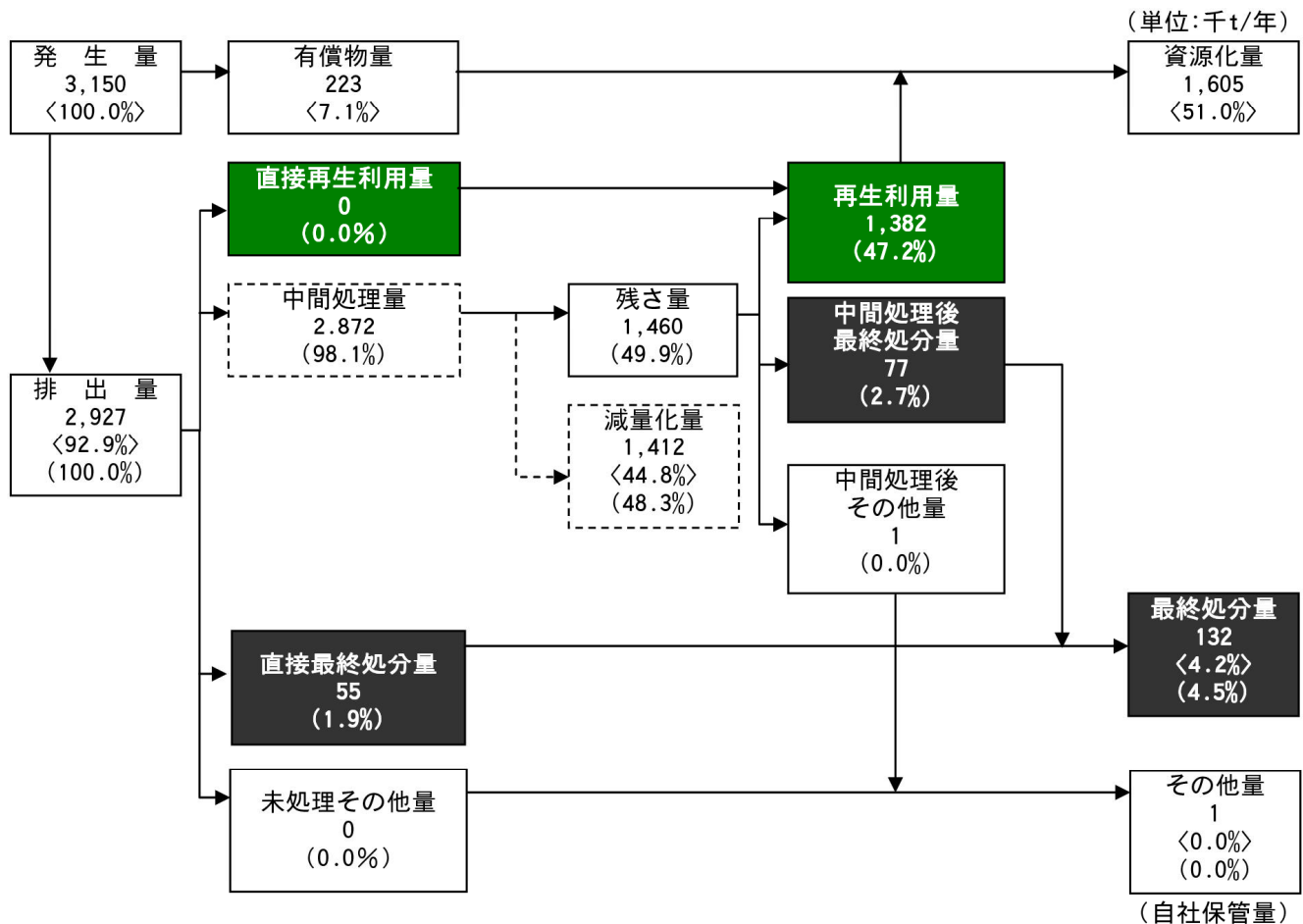
平成20年度一般廃棄物（ごみ）処理処分フロー

産業廃棄物の現状

平成20年度における産業廃棄物の発生量約315万 tのうち、有償物量の約22万3千 tを除いた排出量は約292万7千 tとなります。

中間処理された量は約287万2千 t（排出量の98.1%）であり、未処理のまま直接最終処分された量が約5万5千 t（同1.9%）、再生利用された量は1千 t未満となっています。

また、中間処理により約141万2千 t（同48.3%）が減量化されており、中間処理後の残さ量は約146万 t（同49.9%）となっています。一方、処分状況でみると、再生利用量が約138万2千 t（同47.2%）、最終処分量が約13万2千 tとなっています。



注1:〈 〉は発生量に対する割合, ()は排出量に対する割合を示します。

注2: 図中の数値及び%表示については四捨五入しているため、総数と個々の数値の合計が一致しないものがあります。

3 第二期徳島県廃棄物処理計画の目標達成度

一般廃棄物の目標達成度

第二期徳島県廃棄物処理計画の目標値（平成22年度）と現状（平成20年度）を比較すると下表のとおりとなります。平成20年度時点では、排出量、総資源化量、最終処分量とも目標を達成できていないことから、今後はさらなる対策の強化を図っていく必要があります。

第二期徳島県廃棄物処理計画の目標と実績値の比較

			基準年度 平成15年度	第二期計画		現 状 平成20年度
				予想値 平成22年度	目標値 平成22年度	
人口 (人)			827,408	798,000		803,168
年間 ごみ 量	発生・排出量	排出量 (千t)	314	319	259 <small>(平成15年度の0.82倍)</small>	291 <small>(平成15年度の0.93倍)</small>
	処理処分量	総資源化量 (千t)	52	53	67	54
		中間処理による減量 (千t)	206	210	159	196
		最終処分量 (千t)	56	56	33	37
原 単 位	発生・排出量	排出量 (g/人・日)	1,038.0	1,093.6	889.2	994.3
	処理処分量	総資源化量 (g/人・日)	171.6	180.4	230.0	184.3
		中間処理による減量 (g/人・日)	682.9	719.6	545.9	668.2
		最終処分量 (g/人・日)	183.5	193.6	113.3	124.7
処 理 比 率	発生・排出量	排出量 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0
	処理処分量	総資源化量 (%)	16.5	16.5	26.0	18.9
		中間処理による減量 (%)	65.8	65.8	61.3	68.4
		最終処分量 (%)	17.7	17.7	12.7	12.5

注) 表中の数値は四捨五入しているため、合計と個々の数値の計が一致しないものがあります。

【課題】

- 本県のごみ排出量は、人口の減少とともに減少しており、平成20年度には約29万1千tと平成15年度(31万4千t)より7.3%減となっています。ごみ排出量を1人1日あたりの排出量で見ると、平成15年度より平成20年度は4.2%減少しています。
- リサイクル率は増加していますが、目標値を達成するためにはさらなる努力が必要です。また、資源ごみの持ち去りが顕在化しており、持ち去り防止等の取り組みが必要です。
- 最終処分量の削減には、焼却残さの減量化が最も効果があると思われます。県内の一般廃棄物焼却施設の更新の際には、残さの少ない熔融炉の導入を図ると同時にエネルギー回収・資源リサイクルも併せて導入を検討する必要があります。
- 今後はリサイクルの推進や最終処分量の削減、高度な余熱利用が可能な施設を整備するため、広域化など施設の集約等を推進していく必要があります。

産業廃棄物の目標達成度

第二期徳島県廃棄物処理計画の目標値（平成22年度）と現状（平成20年度）を比較すると下表のとおりとなります。排出量については、目標を達成している結果となっていますが、最終処分量については目標値を達成できていないことから、今後はさらなる対策の強化を図っていく必要があります。

第二期徳島県廃棄物処理計画の目標と実績値の比較

			基準年度	第二期計画		現 状
				平成15年度	予測値	
			(単位)			平成22年度
年間量	発生・排出量	排出量 (千t)	3,068	3,519	3,120 (平成15年度の1.02倍)	2,927 (平成15年度の0.95倍)
		処理処分量	再生利用量 (千t)	1,688	1,772	1,851
	減量化量 (千t)		1,212	1,565	1,169	1,412
	最終処分量 (千t)		168	182	100	132
	その他量 (千t)	1	1	0	1	
処理比率	発生・排出量	排出量 (%)	100.0	100.1	100.0	100.0
		処理処分量	再生利用量 (%)	55.0	50.4	59.3
	減量化量 (%)		39.5	44.5	37.5	48.3
	最終処分量 (%)		5.5	5.2	3.2	4.5
	その他量 (%)	0.0	0.0	0.0	0.0	

注) 表中の数値は四捨五入しているため、合計と個々の数値の計が一致しないものがあります。

【課題】

- 排出量は、現状で既に第二期徳島県廃棄物処理計画の目標値を達成していますが、これはリーマンショックによる本県経済への影響が大きな要因と考えられることから、景気の回復に伴い、排出量が増加することが考えられます。産業廃棄物の発生抑制に向け、多量排出事業者のより一層意欲的な取り組みを促すとともに、中小零細事業者に対するなお一層の意識啓発を図る必要があります。
- 廃棄物の再使用・再生利用・熱回収などの循環的な利用促進を図るため、技術開発や設備導入等を積極的に図っていく必要があります。また、公共事業を中心とした建設系廃棄物の循環的利用の促進やリサイクル製品（再生品）の市場拡大も必要です。
- 適正処理を推進するため、排出事業者責任の原則の徹底を図るとともに優良な処理業者の育成に取り組む必要があります。また、不法投棄は減少傾向を示しているものの未然防止や早期発見になお一層の取り組みが必要です。
- 県民の産業廃棄物処理施設の不適正処理に対する不安感や不信感を払拭し、地域住民の信頼性の向上に努める必要があります。

4 排出量及び処理量の見込み

一般廃棄物の将来予測結果

平成15年度から平成20年度までの実績値を基に、徳島県における一般廃棄物（ごみ）排出量の将来推計を行った結果は下表に示すとおりです。

			現状 平成20年度	推計年度		
				平成27年度		
				低位推計	中位推計	高位推計
人口 (単位)						
人口 (人)			803,168	761,655		
年間ごみ量	発生・排出量	排出量 (千t)	291	278	288	303
		総資源化量 (千t)	54	53	54	57
	処理処分量	中間処理による減量 (千t)	196	191	198	208
		最終処分量 (千t)	37	35	36	38
原単位	発生・排出量	排出量 (g/人・日)	994.3	1,000.0	1,036.0	1,089.9
		総資源化量 (g/人・日)	184.3	189.0	195.8	206.0
	処理処分量	中間処理による減量 (g/人・日)	685.3	686.0	710.7	747.7
		最終処分量 (g/人・日)	124.7	125.0	129.5	136.2
処理比率	発生・排出量	排出量 (%)	100.0	100.0 (中位)		
		総資源化量 (%)	18.9	18.9 (中位)		
	処理処分量	中間処理による減量 (%)	68.6	68.6 (中位)		
		最終処分量 (%)	12.5	12.5 (中位)		

注) 表中の数値は四捨五入しているため、合計と個々の数値の計が一致しないものがあります。

産業廃棄物の将来予測結果

平成15年度及び平成20年度に実施した産業廃棄物実態調査で把握した排出量原単位に業種ごとの将来の活動量指標値を乗じて将来予測を行った結果は下表に示すとおりです。

区分	H.15	H.20	H.27
排出量	3,068 (100.0%)	2,927 (100.0%)	3,187 (100.0%)
再生利用量	1,688 (55.0%)	1,382 (47.2%)	1,548 (48.5%)
減量化量	1,212 (39.5%)	1,412 (48.3%)	1,495 (47.0%)
最終処分量	168 (5.5%)	132 (4.5%)	144 (4.5%)
その他	1 (0.0%)	1 (0.0%)	1 (0.0%)

注) 表中の数値は四捨五入しているため、合計と個々の数値の計が一致しないものがあります。

5 廃棄物の減量等目標値

以上のことを踏まえ、第三期徳島県廃棄物処理計画のごみ減量等目標値を以下のよう
に設定します。

一般廃棄物の目標値

第三期徳島県廃棄物処理計画の一般廃棄物（ごみ）の目標として、以下のとおり設定
します。

基本目標：国の基本方針に示された目標であり、是非とも実現したい目標値

努力目標：第二期計画の目標値に準じた目標であり、様々な減量化施策等を講じることに
より目指すべき目標値

先進目標：徳島県が全国トップクラスとなることを目指してチャレンジするための目標値

現 状	平成27年度目標
ごみ排出量（t/年） （平成20年度実績：291,482 t）	基本目標：269,000 t（H20比 約 8%削減） 努力目標：239,000 t（H20比 約18%削減） 先進目標：208,000 t（H20比 約29%削減）
県民1人1日あたりごみ排出量 （g/人日） （平成20年度実績：994 g）	基本目標：966 g（H20比 約 3%削減） 努力目標：858 g（H20比 約14%削減） 先進目標：746 g（H20比 約25%削減）
県民1人1日あたり家庭系ごみ排出量 （g/人日） （平成20年度実績：764 g）	基本目標：737 g（H20比 約 4%削減） 努力目標：659 g（H20比 約14%削減） 先進目標：573 g（H20比 約25%削減）
県民1人1日あたり事業系ごみ排出量 （g/人日） （平成20年度実績：246 g）	基本目標：229 g（H20比 約 1%削減） 努力目標：199 g（H20比 約13%削減） 先進目標：173 g（H20比 約25%削減）
リサイクル率（%） （平成20年度実績：18.9%）	基本目標：25%（H20比 約 6 ^ポ イント増加） 努力目標：28%（H20比 約 9 ^ポ イント増加） 先進目標：31%（H20比 約12 ^ポ イント増加）
最終処分量（千t） （平成20年度実績：36.5千t）	基本目標：31.7千t（H20比 約13%削減） 努力目標：28.5千t（H20比 約22%削減） 先進目標：24.1千t（H20比 約34%削減）

産業廃棄物の目標値

- 平成27年度における排出量の増加を平成20年度に対して0.8%の増加に抑制し、排出量を295万tとすることを目標とします。
- 再生利用については、減量化と再生利用は密接に関係していることから、平成27年度において、再生利用量と減量化量を合わせた総量285万2千トン、再生利用率と減量化率を合わせて96.7%を目標とします。
- 最終処分については、さらなる排出抑制や再生利用等の促進に努めることにより、平成27年度の目標値を最終処分量9万8千トン、最終処分率3.3%とします。

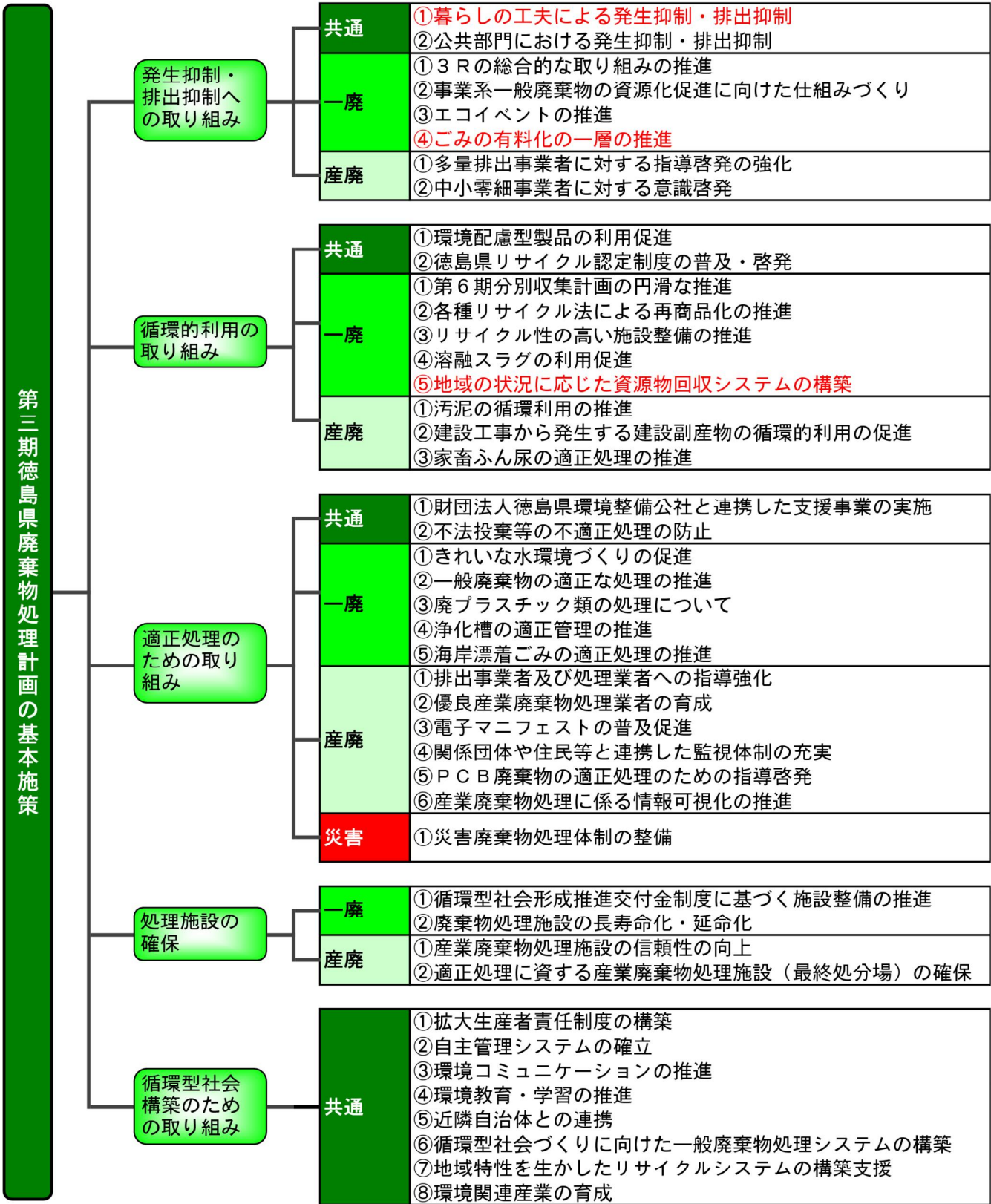
			平成20年度	平成27年度
			(基準年度)	目標値
			(単位)	
年間量	発生・排出量	排出量 (千t)	2,927	2,950 (平成20年度の0.8%増)
		処理処分量	再生利用量 (千t)	1,382
	減量化量 (千t)		1,412	} (1,289)
	最終処分量 (千t)		132	
	その他量 (千t)		1	0
処理比率	発生・排出量	排出量 (%)	100.0	100.0
		処理処分量	再生利用量 (%)	47.2
	減量化量 (%)		48.3	} (43.8)
	最終処分量 (%)		4.5	
	その他量 (%)		0.0	0.0

注) 表中の数値は四捨五入しているため、合計と個々の数値の計が一致しないものがあります。

6 基本施策

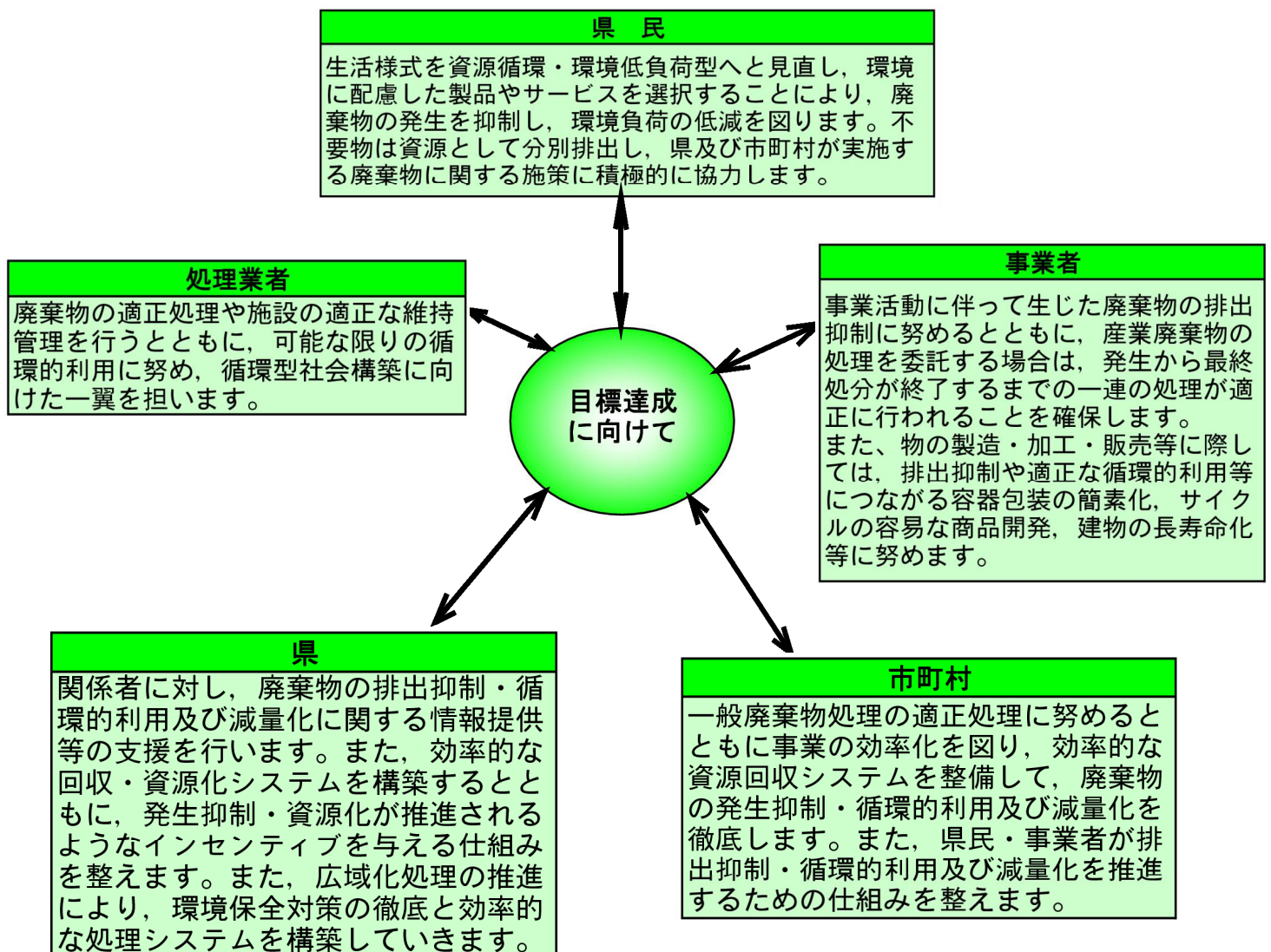
目標値の達成や適正処理の推進を目指し、本県では以下のような施策を実施します。

※赤字で示した施策は重点施策です。



7 関係者の役割

本計画を円滑に推進するためには、各関係者がその役割を十分に認識し、協力と連携を行っていく必要があります。



8 計画の進行管理

目標達成のため、「とくしま環境県民会議」及び同会議の「クリーン・リサイクル推進部会」と連携し、県民・事業者・市町村・県における取り組みを推進します。

本計画の計画管理及び事後評価については、P D C Aサイクル(Plan[計画], Do[施策の実施], Check[達成状況の確認], Action[事業の見直し])により、継続的な改善を図っていくものとします。また、計画の進行管理と評価については、できる限り数値化して把握するとともに、インターネット等を通じて広く公表していきます。

